

## 非日常の世界を提供したい

日勝生加賀屋国際温泉は台湾の不動産開発会社である日勝生活科技が80%、日本の加賀屋温泉旅館が20%出資して設立した合弁会社で、台湾で旅館業を営もうとしている。

同社は日本のトップブランド旅館として、台湾の温泉発祥の地である北投にて、台湾と日本の発展に旅館業を通じて貢献しようとしている。今回は日勝生加賀屋国際温泉(股)有限公司の徳光信誠総経理にお話を伺った。



日勝生加賀屋国際温泉飯店(股)有限公司  
徳光信誠総経理

加賀屋さんが台湾を最初の海外進出拠点に決めた理由を教えてください。

加賀屋が数ある海外進出の引き合いを断っているにも関わらず、台湾進出を決めた理由は3つあり、

加賀屋の海外からのお客様で約90%が台湾からであること、台湾人が親日的であること、海外に向けてブランドビジネス展開を考えていた頃であったことです。台湾からのお客様は1997年から日本のJTBを通じて台湾の東南旅行社と提携してから増え始め、現在累計で8万人、最近では年間2万人が宿泊されます。また2005年から台湾人がノービザで3ヶ月日本滞在が可能になったことも大きく影響しています。

徳光さんのプロフィールと加賀屋さんとのコネクションについてお聞かせください。

私は日本の加賀屋から派遣された社員ではありません。元々大阪に本社のある株式会社ザ・ビッグスポーツという会社で10年働いた後、1995年に台湾拠点立ち上げというミッションでその台湾子会社の総経理として赴任し、8年間で5つのスポーツクラブを立ち上げました。その中の1つが台北市大原路にあるTOKIOで、そのオーナーがパートナーである不動産開発会社の日勝生活科技(資本金約56億円の上場会社)だったわけです。

ザ・ビッグスポーツがSARSの影響で2003年5月に台湾から拠点撤退する時、石川県金沢市の同郷で尊敬する八田興一(1886年~1942年:台湾南部、嘉南平原に烏山頭ダムと総延長16,000kmに及ぶ給排水路からなる嘉南大圳を立案、設計、完成させ、不毛の大地を台湾最大の穀倉地帯に変えた。嘉南大圳の父と呼ばれている。)の影響を受けて、日台交流に一役買いたいと考えていた私はその会社を辞め、自らの意思で台湾に残る決意をしました。

そんな中、加賀屋が台湾人旅行客を掴むために、台湾にて4,000万円の広告費を使うものの、SARSの影響で全く客が来ないという新聞記事を読みました。そしてスポーツクラブ立ち上げ以来お付き合いのあった日勝生活科技が北投に土地を買い、ホテル経営をしたいが、運営を任せられるパートナーを探しているというのを聞いていました。日台の架け橋、そして地元石川県とのつながりを大切にしたいと考えていた私はこれは何かの運命だと思い、加賀屋と日勝生活科技の提携に動き始めました。

最初は銀行経由で加賀屋とのアポをとろうとし、門前払いを受けたのですが、その後知り合いのコネクションで、加賀屋のオーナーと会うことができ、そこから約1年の歳月をかけ、2004年6月に資本金2億元の合弁会社を設立しました。

## 日本企業から見た台湾

御社の台湾での事業展開についてお聞かせください。

昨年12月から工事を開始いたしました。現在オープンは2010年初頭を目処に動いております。

敷地面積は日本の加賀屋の約10分の1の約400坪と狭いのですが、地下3階、地上14階建てで、客室は計90室、全部屋に和洋室と個別の温泉風呂を設ける予定です。料金は1泊2食（朝食、夕食）付で1人7,000～8,000元にすることを考えています。少し高額の料金設定ですが、台湾はM型社会が日本以上に顕著と考えており、ブランド意識を高く、サービスも高く、そして価格も高くと考えております。

年間売り上げは初年度から6億元、部屋の稼働率は80%以上を目標としております。お客様のターゲットは7割が台湾人、3割が日本人を見込んでいます。台湾人のお客様には旅行客に限らず、会社の研修、また日帰りでもお使いいただければと考えております。また日本のお客様はこれから団塊の世代を中心に増えるリタイヤされた方々、また台湾旅行の最後の日にお疲れになった後、最後は慣れた日本の畳でおくつろぎいただければと考えております。

館内は純日本式の大浴場、日帰り入浴施設の他、エステティックサロン等も設ける予定です。また建物は加賀屋会長の小田禎彦がラスベガスのホテルから影響を受け展開を決めた、吹き抜け式の構造で、エレベーターで昇る途中で、渡り廊下が見えたり、ひさしの長い数奇屋造りが望めたりと趣向が凝らして有ります。これら台湾で日本という非日常の世界を提供したいと考えております。

旅館経営を軌道に乗せた後は輪島塗、九谷焼、金箔と言った石川県伝統工芸品の販売にも力を入れていきたいと考えております。

これまでの過程で苦労なされた点はどのような点でしょうか？

日台建築基準の違いです。加賀屋は純和風の建物

が売りです。先に申し上げたひさしの長い数奇屋造りが一つの特徴なのですが、台湾では当初ひさしは50cmしか出してはいけない等の制約がありました。しかし昨年その基準が1mに伸びて、何とか数奇屋造りを実現することが出来ました。

また色の制約、建物の高さ規制等色々となりましたが、現場でコミュニケーションを密にして、現在1つずつこうした問題を乗り越えているところです。

台湾の旅館業界についてお感じになっている事をお聞かせください。

良いホテルと悪いホテルのサービスレベルに開きがあると感じています。Regentさんなどは素晴らしいサービスを展開なさっていますね。

台湾では日本のように協同組合を作らず、個別に進めていくことが多く、それ故、物事の進展に時間がかかることがあります。また高雄で既に起こっていますが、安売り競争による価格破壊が起こっているようにも感じています。

そんな中、来年には日月潭付近にホテルオークラが、台北101付近にFour Seasons Hotel and Resortがとライバルが続々と出現し、これらが相乗効果となって旅館業界を盛り上げていければと考えております。

最後に読者の皆様一言お願いいたします。

これから純日本風のサービスを掲げて、2010年初頭のオープンを目指しておりますので、ご期待ください。また台湾にいらっしゃる皆様、4月7日22時から毎週民視テレビ台にて、台湾、日本、中国の共同合作で、「花の恋」という連続ドラマの放送を開始します。これはジュディ・オングさんが加賀屋旅館の女将を演じる恋愛物語です。是非ご覧ください。

ありがとうございました。